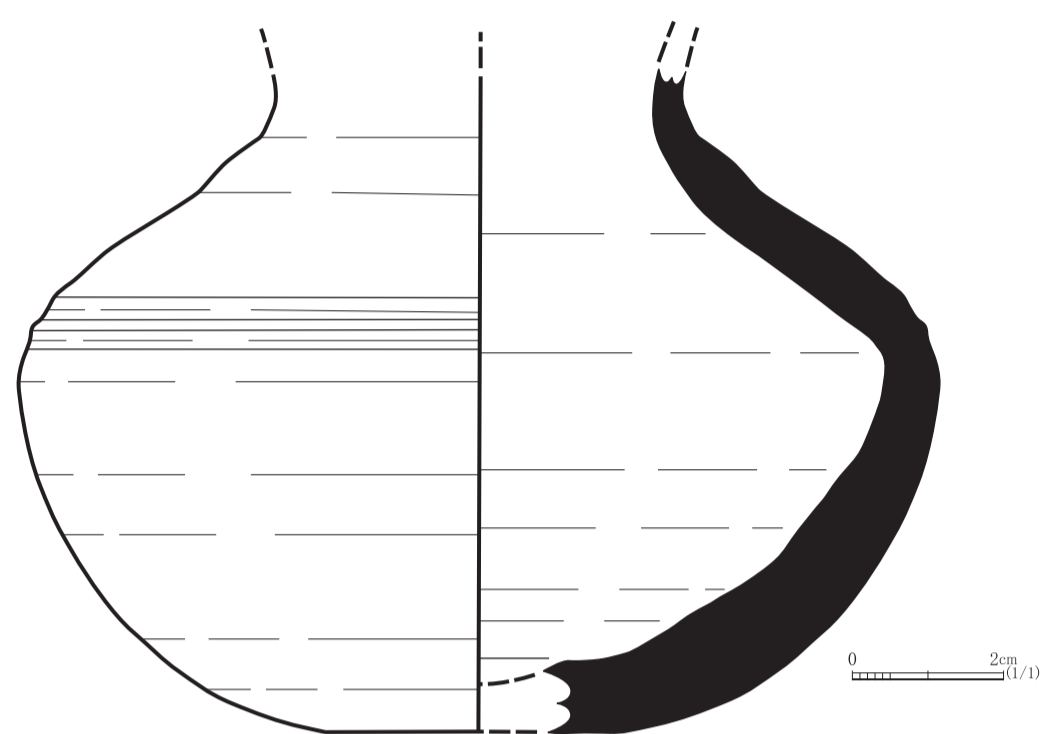


消滅古墳の副葬品か

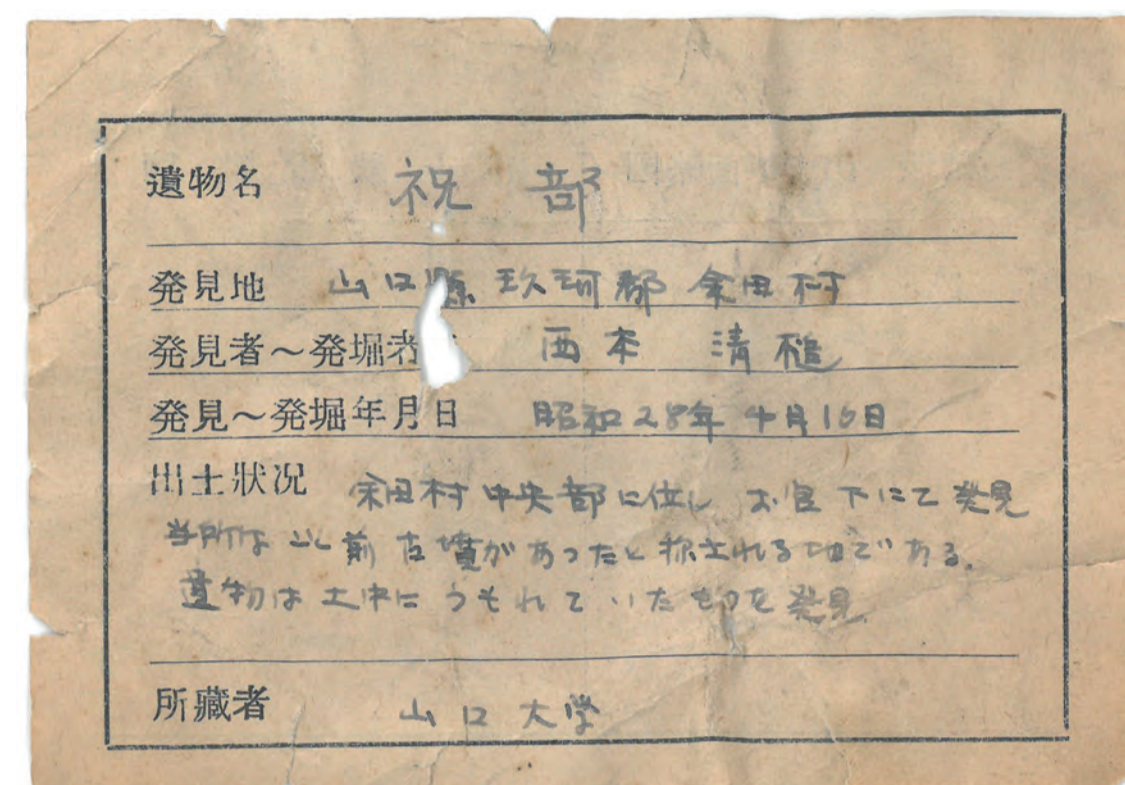
須恵器 短頸壺



遺物実測図



内面注記



資料に同封されたメモ

資料の概要

- 資料名：須恵器 短頸壺
- 所属時期：古墳時代後期
- 出土地：山口県玖珂郡余田村(現：柳井市)小平尾
- 出土年月日：昭和28年(1953)4月16日

この須恵器短頸壺には、比較的情報が残されています。まず、資料の体部内面には、
玖珂郡 余田村 小平尾 祝部。 二八.四.十六
と注記されています。また、遺物袋に同封されたメモには、さらに詳細な情報が記入されています。メモの表面には、

遺物名 祝部(いわいべ) ※現在で言う「須恵器」のこと

発見地 山口県 玖珂郡 余田村

発見者～発掘者 西本 清槌

発見～発掘年月日 昭和28年4月16日

出土状況 余田村中央部に位しお宮下にて発見 当所は以前古墳があったと称される地である。遺物は土中にうもれていたものを発見

さらにメモの裏面には、簡略的なものではありませんが出土地点の地図が描かれています。地図を見ると、JRの線路の北側に「文」の文字があり、その南隣に(役)の文字が見えます。これらの情報から推察すると、この場所はJR山陽本線柳井駅の西方約4kmの柳井市小平尾、文の文字は現在の余田小学校を示すものと思われます。(役)は旧来は村役場を示しているのでしょう。

問題は、遺物が採取された「お宮」の位置です。現在、余田小学校の北西隣には名合八幡宮という神社が存在します。現地を訪れると、過去に古墳が存在してもおかしくない立地ですが、地図の出土地点とはやや位置が異なるようです。「お宮下」とはいったい何処なのでしょう。